



2025年11月18日
第076号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

八王子・横浜地本合同「情報づくり研修」開催

11月16日、昨年に引き続き八王子地本と合同で「情報づくり研修」を開催しました。今回は第五福竜丸展示館、小名木川駅殉職者慰霊碑、東京大空襲・戦災資料センターを現地踏査しました。

【第五福竜丸展示館】



第五福竜丸は1954年3月1日、マーシャル諸島ビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験により被ばくした静岡県焼津港所属の遠洋マグロ延縄漁船です。爆心地より160km東方アメリカが設定した危険水域の外で操業中に水爆実験に巻き込まれ、やがて実験により生じた「死の灰」(放射性降下物)が第五福竜丸に降りそそぎました。乗組員23名全員が被ばくし、無線長の久保山愛吉さんは約半年後に亡くなりました。

その後、船体は東京水産大学(現・東京海洋大学)の練習船「はやぶさ丸」となり、1967年に老朽化のため廃船処分となります。船体はゴミ処分場であった「夢の島」に放置され、他の廃船とともに埋立地に埋められる予定となっていたが、これを知った市民の間から保存の動きが起こり、原水爆による惨禍が再び起こらないようにという願いをこめて、1976年6月に東京都立第五福竜丸展示館が開館しました。

1945年3月10日、アメリカ軍の無差別爆撃によって東京の下町一帯は焼け野原になり、約10万人もの人びとが命を奪われました。この「東京大空襲」をはじめ、戦時中に東京は100回以上の空襲を受け、多くの人が家財を焼かれ、傷つき命を失いました。

戦災資料センターは東京大空襲の惨状を次世代に語り継ぎ、平和の研究と学習に役立てることを願って多くの方々の募金で設立された民立・民営の資料センターです。2002年3月9日、戦禍のもっとも大きかったここ北砂の地に開館しました。空襲で亡くなった人たちの生前の写真や被災した人たちの体験記、それに焼け跡から掘り出された焦げた茶碗や鉄の釜といった生活用品などの資料が保管されています。

当日は、東京大空襲を経験された方から講話をいただき、「戦争は楽しい家族・幸福を一瞬でなくす」「戦後のひもじい思いをしたくない。生き残っても大変な思いをするのも戦争」「軍事費を8兆も計上して、けしからん世の中になっている」「戦争ほど愚かなものはない」と熱い想いを参加した人たちが訴えかけてくれました。

【東京大空襲・戦災資料センター】



【小名木川駅職員慰霊碑】



小名木川駅は、総武本線貨物支線の貨物駅として1929年に開業しました。付近を流れる小名木川との水陸の物流連絡として機能し、最盛期には多くの貨物荷役線を有する東京都東部の鉄道貨物輸送の拠点でしたが、貨物輸送形態の変化による取扱量の減少によって2000年に廃止されています。→現在は複合型商業施設「Ario 北砂」

東京大空襲では小名木川駅も壊滅的な被害を受け、駅構内の設備や500両以上の貨車、数千トンの貨物が焼失しました。また当日に勤務していた駅員24名中12名が殉職しています。この慰霊碑は空襲の犠牲になった12名の職員と、業務中の事故で亡くなった4名の職員の霊を悼める慰霊碑で1962年に建立されました。揮毫きごうは当時の国鉄総裁・十河信二です。

【参加者からの感想】

●第五福竜丸展示館は初めてきた。第五福竜丸は水爆実験で被爆したぐらいの知識だった。第五福竜丸だけがクローズアップされて、他の漁船も被害に遭っていたことを知ることができた。ロンゲラップ環礁の人達は、水爆実験後も経過観察させられ人体実験にあっている。被害に遭うのは立場の弱い労働者、市民。アメリカも水爆実験は無かったこと、不都合は隠そうとしている。

●文書では語られないものが聞けた。家族を非国民と思っていた人が戦争は愚かと訴えるほど。生き残るに伴う苦労が聞けて、生き延びている辛さも戦争と感じた。生の講演が聞けるのはあと数年。貴重な体験ができた。体験した話を聞いて、やっぱり重みが違う。その時々風景など感じられた。戦争がいかに愚かなのか再認識させられた。戦意を無くさないために死体を埋める。国、企業の在り方は今も昔も変わらない。JRも都合の悪いことはねじ曲げ、蓋をする姿勢は変わらない。真実を広めていかないといけない。

●戦争を煽る政権に対して、防ぐためにどうするのか。19日行動参加。情報で伝える。新聞投稿をやる。

戦後80年、歴史を学び平和を語り広めよう！